

審判上の確認

審判委員長

- 1 本大会は、2026年度公益財団法人日本バレーボール協会6人制競技規則により実施する。
- 2 競技参加者は、公式競技規則を熟知し、これを守らなければならない。また監督およびチームキャプテンは、チーム関係者の言動について責任をもたなければならない。
- 3 両チームのラインアップをスコアラーがスコアシートに記入し終えたら、チームはラインアップを訂正することはできない。ただし、そのセットが始まる前にスターティングラインアップの選手が負傷した場合は、監督がファーストレフェリーに申し出て、確認後変更することができる。この変更は選手交代には含まれない。なお、変更は負傷した選手のポジションに限る。
- 4 サービングチームの選手は、1人または集団でスクリーンを形成してサービスヒットおよびサービスボールのコースが相手チームに見えないように妨害してはならない。サービングチームの選手は、サービスボールがネットを超えるまで、手を頭より上にあげてはならない。意図的なスクリーンが疑われる場合、ファーストレフェリーはゲームキャプテンを通じてチームに注意することができる。
- 5 サービスヒットの瞬間、両チームは（サーバーを除き）それぞれのコート内に位置していなければならない。ただしレシービングチームのポジションの反則が成立するのは、サーバーがトスをした瞬間である。トスをする瞬間までに、コート内に位置していなかったり、ポジションが完全に入れ替わったりしたケースは反則となる。
- 6 チームの2回目のヒットが指を使ったオーバーハンドパスで行われ自チームの空間内にボールが飛んだ場合は、手の中で連続して接触してもダブルコンタクトの反則にならない。アタックヒットが完了（ボールがネットの垂直面を完全に通過するか、相手ブロックに接触）したときは、ダブルコンタクトの反則になる。
- 7 ゲーム中のワイピングは、原則としてコート内の選手が行う。タイムアウト、セット間およびレフェリーが危険と判断した場合のみモップの使用を許可する。
- 8 競技参加者は、スポーツマンとして相応しくない行為はしないこと。判定に疑問がある場合は、ゲームキャプテンを通してのみ質問することができる。
- 9 リベロのリプレースメントは、必ず1ラリー挟まなければならない。その際、ボールがアウトオブプレーの間に、チームベンチ前のリベロリプレースメントゾーン内で速やかに行うこと。